

登録コード	UAC56500	開講年度	2026				
授業題目	英語文学研究IV			担当教員	飯岡 詩朗		
				副担当	田所 朱莉		
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	木曜・1時限		
				授業形態	講義		
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」			⇔	【授業の達成目標】		
	2 6 UAカリ・総人社・人間文化学, 2 5 UAカリ・総人社・人間文化学						
	【人間文化学】人間文化に関する文献・資料を収集・調査し分析・考察する人文学の伝統的な手法を身につけるとともに、他の学問分野の解析手法を併せて修得することによって、複雑多様化する現代社会の課題に柔軟な対応ができる応用力を有する。			⇔	人文学の伝統的な手法を身につけるとともに、他の学問分野の解析手法を併せて修得することによって、複雑多様化する現代社会の課題に柔軟な対応ができる応用力を身につける		
	【人間文化学】高度な言語運用能力とコミュニケーション能力を基盤として、多領域のステークホルダーと協働し、現代社会の課題に取り組みながら、独創的かつ多文化共生的な英知の創成と提案を行う力を有する。			⇔	独創的かつ多文化共生的な英知の創成と提案を行う力を身につける。		
(2)授業の概要	アメリカ文学・文化のテキストとそれに関する論文を読んで考察します。						
(3)授業計画	第1回：イントロダクション 第2回：アメリカ文化・歴史に関するテキストの読解1（第二次大戦前） 第3回：アメリカ文化・歴史に関するテキストの読解2（第二次大戦後） 第4回：アメリカ文化・歴史に関するテキストの読解3（現代） 第5回：アメリカ文化・歴史に関するテキストの批評1（歴史的） 第6回：アメリカ文化・歴史に関するテキストの批評2（イデオロギー的） 第7回：アメリカ文学・演劇テキストの読解1（第二次大戦後） 第8回：アメリカ文学・演劇テキストの読解2（現代） 第9回：アメリカ文学・演劇テキストの批評1（歴史的） 第10回：アメリカ文学・演劇テキストの批評2（イデオロギー的） 第11回：アメリカ映画のテキスト分析1（第二次大戦前） 第12回：アメリカ映画のテキスト分析2（第二次大戦後） 第13回：アメリカ映画に関する批評1（歴史的） 第14回：アメリカ映画に関する批評2（イデオロギー的） 第15回：まとめ 期末試験は実施しません。						
(4)成績評価の方法	授業内の発表およびディスカッションへの参与状況50%、期末レポート50%で総合的に評価します。 得点率による評価基準は次のとおりとします。 90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。						
(5)成績評価の基準	【卓越している】英語圏の言語文化に関する基礎的な知識をもとに、適切な情報処理を行い、論理的に思考し、数量的に思考し、自律的に考える力を総合して、極めて高い水準にある。 【かなり上にある】英語圏の言語文化に関する基礎的な知識をもとに、適切な情報処理を行い、論理的に思考し、数量的に思考し、自律的に考える力を総合して、非常に高い水準にある。 【やや上にある】英語圏の言語文化に関する基礎的な知識をもとに、適切な情報処理を行い、論理的に思考し、数量的に思考し、自律的に考える力を総合して、高い水準にある。 【その水準にある】英語圏の言語文化に関する基礎的な知識をもとに、適切な情報処理を行い、論理的に思考し、数量的に思考し、自律的に考える力を総合して、一定水準にある。						
(6)事前事後学習の内容	計画表にそって、前回の復習や確認をするとともに、当該回の準備や予備知識の補充を事前に行ってください。						
(7)履修上の注意	英語で書かれた学術論文を精読していきますので、高い英語力が求められます。十分に予習をした上で授業に参加してください。						
(8)質問,相談への対応	授業時間後またはメールで対応します。面談を希望する場合はメールで事前に連絡した上でオフィスアワーに研究室を訪問してください。オフィスアワーは初回に伝えます。メールアドレスは、人間文化学分野履修案内に掲載されています。						
【教科書】	プリントを配布します。						
【参考書】	授業内で紹介します。また、各回の内容に合わせて独自に作成したプリントを適宜配布します。						